

## 令和5年度第3回学校魅力強化委員会議事録

開催日	令和5年11月29日(水) 於 白石高校普通科キャンパス会議室
開催時間	15:30~17:00
出席者数	委員8名 事務局6名
出席者氏名	委員:江口、内野、藤井、岡、林、上原、門田、溝口 事務局:平山、牧瀬、小川、谷口、山田翔、野見山
会議次第	1 開会 2 会長挨拶 3 議事 (1) スクールミッションについて (2) 学校評価中間評価について 4 報告・連絡事項 (1) 学校訪問報告「松浦高校」 (2) 志願者数報告 (3) SCS活動報告 (4) 学校魅力強化委員会での協議内容の実現等について 5 閉会
4 議事	
2 会長挨拶	<p>一地域住民としてお礼を申し上げる。先日の須古こどもくんちでは大変お世話になった。小中学生と高校生の交流の場があることが非常に良い。高校生の面倒見の良さや働きぶりに感心したという保護者の声が多く聞かれた。今後もこの繋がりは大切にしたい。白石高校生あつての地域行事だと感じるイベントであった。</p> <p>(議事より先に 4 報告・連絡事項 (1)学校訪問報告を行った)</p> <p>(1) 学校訪問報告「松浦高校」</p> <p>校長:松浦高校も探究で国の指定を受け、先進的な取り組みを行っている。探究プログラム作りの参考として視察を行った。他県の様子も踏まえながら本校のプログラムを作っていきたい。</p> <p>会長:全国的に地域連携活動を行っているが、その背景には何があるのか。</p> <p>校長:社会に開かれた教育課程や学校とよく言われている。地域にとっても学校の存在意義があるのであれば、学校と地域で協働しながら地域に残すよう努力する必要がある。</p> <p>会長:松浦高校においても、学校側も地域とつながることで生徒募集につなげていきたいと真摯に思っているということか。</p> <p>報告者:そうである。地元の中学校と共同した取り組みも行っている。</p> <p>委員1:地域は、自分の町から高校が無くなると困る。高校も地域から支援を受けながら存続していきたいという事情がある。報告書にも書いてあるように松浦市も松浦高校がなくなってしまえば市の人口減も歯止めが利かなくなってしまう。だから市もお金を出している。それでもなかなか厳しいが。お互い寄り添っている感じであろう。</p> <p>会長:地域づくりの一つの拠点としての学校の起用の仕方を、自治体はどう考えるかである。</p> <p>委員1:どこも模索している。地域との協働により特色や魅力ある教育を実現せよと文科省が勧め、地域と高校が共倒れしないようにしているというのが今の日本の流れだが、最終的にその学びが生徒の将来にどのように生かせるのが保護者や本人たちの関心事である。白石高校としてそれを示すことができたら差別化できて非常に良い。</p> <p>委員2:白石高校の先の進路がどうなのか、親としてはまさにそこが問題。このような会議でもそこをしっかりと議論して盛り上げていかなければならない。</p> <p>委員1:学校の環境は昔とは違う。今からはしっかりと特色をPRしていくべき。地域活動でも生徒自身もPRできるように。進学面でもPR出来るように特進クラス又は特進科を作って徹底していった方がいいのではとも思う。</p> <p>会長:今回視察した学校は近いだけに議論が深まった。報告ありがとうございました。</p>
3 議事	
(1) スクール・ミッションについて	<p>委員3:学校主体と考えれば「育成する」でよい。生徒主体であればそこを変えた方が良い。「夢を形にできる」「高い志」は是非入れていただきたい。「主体的に未来を切り拓く」は校訓の「自立」や「創造」に繋がっていくところであり、非常に良いと感じる。「地域社会に貢献できる」も是非入れていただきたい。</p> <p>委員2:校訓を基に作られていてとても良いと思う。</p> <p>委員1:脈々と流れた校訓を基に作られていて非常に良い。あとはこれを生徒たちにどう説明するか。生徒達にもわかりやすく、生徒バージョンに作り替えて、「白石高校はこういう学校で、スクー</p>

ルミッションはこれですよ」ときちんと説明したほうが良い。

委員 2 : この下に詳しい内容を書けば生徒も具体的に理解できるのではないかと思う。

校 長 : スクール・ミッションのあとに 3 つのスクール・ポリシー、グランドデザインを作る。そこでは具体的に書ける。

委員 4 : 幼児教育でもよく言われるのが「豊かな人間性」。この観点に基づいたものは入れておいていただきたいと思う。

委員 5 : 「夢を形にできる」や「未来を切り拓く」は、実際はどのようにやっていくのか等を具体的に挙げていただかないとわかりにくいと感じた。

校 長 : 「サンマ祭り」や「須古こどもくんち」などを見ていると、生徒たちは地域の方々ときちんと話をするなど、日頃学校では見られない姿などが見られ、地域社会に貢献できている。このような経験を積みながら、これまで行ってきた通常の学力をつける授業に加え、課題解決能力や、志を持ち地域に貢献する力を育てていきたいと考えている。現在両キャンパスのプログラム作りを行っているが、現在行っている地域と連携した活動をきちんと整理し、教育課程の中に定義づけ、どのように役立っていくのかを可視化していきたい。

会 長 : 私も同意見で、これをどう伝えるかが問題。県教委のミッションの再定義の中に、「中学校における進路指導の充実や中学生の学校選択、高校生の科目選択にも資するものとして期待」とある。これがスクール・ミッションの目的であるなら、やはり対象者にわかりやすい解説が必要。パンフレット等でどのように書くか、ということ。

委員 3 : 学校の取り組みが学校の存続や地域の存続に関わってくるとすると、このスクールミッションの具体的なことが見えないと生徒募集には繋がらない。スクールミッションとスクールポリシーがあるという、具体的な内容がないとわかりづらいのだと思う。

校 長 : スクールミッションについては中長期の目標、短年の目標であるスクールポリシーには育てたい生徒像など具体的に書かせていただく。

会 長 : これはアプローチの仕方の一つであるが、最初にゴールを見て、それに合わせて考えていくという方法もあるのでは。最後のアウトプットに生きるかという視点も持つと良い。

委員 5 : わが子の高校選択時の話であるが、その学校の教育目標・教育内容だけを話された際には心動かなかったが、それらを実現するために具体的にはこのようなことを行い、このような経験をさせますという話をされた時に非常に納得し、是非この高校に行かせたいと思った。具体的な内容が分かれば生徒も保護者も入学後の姿が描けて納得すると思う。

会 長 : 「夢を形に」をどう説明するかについてだが、少し、地域活動、「地域課題と人に関わる活動」が「夢を形にする力」と「地域から選ばれる高校」にどう寄与するかを考えてみる。一つ目の「地域活動と夢を形にする力との関係性」であるが、須古こどもくんちで我々地元住民がそうであったように、地域活動を行ってくれる高校生に非常に感謝し評価する。高校生はその活動と感謝された経験から、自らと地域を誇りに思い、自信を付け、愛着を持つ。グローバルに活躍するベースは自分に自信を持つことが大事で、そこが培われ、「夢を形にする力」に繋がる。二つ目の、「地域活動と地域から選ばれる高校」との関係性であるが、地域活動によって、将来本校生になり得る子供達や親、地域の方と繋がり、理解と尊敬を生み、「選ばれる高校」になっていくのでは。そのようなストーリーがきちんと書かれ、なぜ地域活動をやっているのかとか、スクール・ミッションに載せているこの力を育む具体的な活動がこれだということを学校説明会等で伝えると、納得感が得られると思う。

委員 3 : 今年最初のこの会議で、生徒アンケート結果で達成感が低かったのは、生徒にやらされ感があるからではないかと指摘したが、逆に、「やってよかった」と思わせることができれば良くなるのではないかと。主体的に行動させることが大切。また、このような学びはこれまでの教育にはなく、社会に出てから地域や社会との結びつきの中で学んでいたが、今の教育、とりわけ本校では、いろんな活動を行う中で、やって良い事・悪い事、人を喜ばせる事等、いろんなことが学べる。達成感にも繋がるだろう。そのような活動の PR を今まであまりやれていない。このような活動を通して豊かな心を育める学校であるという PR をいかにやるかではないかと思う。

委員 5 : 県立高校は県立高校にしか視察に行けないのか。自分の周囲では私立が人気で、特色と魅力があると聞かすが、そういう私立を見に行けないのか。いろいろ取り組んでいるが成果が出ていない高校を見てどうするのかと思う。娘は現在私立高に 2 時間以上かけて通っているが、学校が楽しくて仕方ないと言っている。子供たちにとって魅力ある学校、魅力が何なのかというところを見てみても良いのでは。

校 長 : それも今後考えていかなければならない。今はプログラムを作る上で参考になるところに行

かせている。今後は生徒が楽しめる取り組みを行っている学校も視察校として考えていきたい。県立と違い、私立は自由度が大きい。参考にもなることもあるかもしれない。

会 長：難しい県立高校の現状があるのは重々承知している。参考にしてもらえれば。

(2) 学校評価中間評価について

委員 1：「いじめの早期発見、早期対応に向けた取り組みの充実」について、保護者はどう受け止めているか。また、97.9%の先生方は出来ていると感じているようだが、生徒は約 8 割。残りの 2 割はそうは思っていないとすると少し多いと感じる。

主 幹：一つ目の質問について、保護者アンケートは 12 月行う予定である。結果はまたこの会でも報告する。二つ目の生徒が 8 割というところは今後改善に向けて取り組んでいく。

委員 2：いじめで学校を辞めたりすることがないように、今まで以上に寄り添って対応いただきたい。

委員 5：「自分の学校を中学生に勧めることができる」生徒は 83.1%だが職員 76.6%が気になった。

校 長：職員も務めてよかったという満足度を上げれば、中学生に自信をもって勧められると思う。何か引っかかるもの等ないか、職員ともしっかり話をしていきたいと思う。

委員 4：皆さんの意見と同じである。複数名が同じことを感じるということは、真摯に受け止めなければならない課題だと思う。もちろん、いじめ対応など、先生方は一所懸命されているために高い数値となるのであるが、やっていることに満足してしまうといけない。生徒との格差があることを意識しないといけない。「生徒に寄り添う」意識を強く持つとこの数値も上がるのではないか。我々も地域として協力できることがあれば一緒にやっていきたい。

委員 1：生徒にも職員にも学校がやっていることがきちんと伝われば学校評価も変わってくると思う。また、「地域・郷土愛を醸成する」とあるが、地域活動で是非 100%郷土愛となってくれればと思う。さらに、地域で活動している高校生を見て、小中学生が同じように地域に貢献したいと思ってくれたらとても良い。地元の子供たちに、「家から通える学校」という時間的メリットも感じてほしい。地域活動ではそこも PR してほしい。

会 長：本校が持っている魅力とは何か、近さという当たり前のことも本当は強みでもあるとか、自分の子供を行かせたい学校とはどんな学校か等を飾らず話せたら良い。また、地域の我々は本校生と本校の先生方に本当に感謝しているが、それを伝えられる場があれば良い。それが生徒と先生方の自信と誇り、やりがい等に繋がると思う。

委員 3：評価項目が「知・徳・体」の順番となっている。これには大きな意味があり、まずは知を磨く、特に高校はその先の進路に力点があるからこの順番だということ意識して生徒にも解説・説明してほしい。個別にみると、まずは「学力の向上」で、「アンケートにおいて生徒のキャリア意識の高まりが感じられる」ということで、自信を持っていただきたいし、我々も感謝したい。「心の教育」では、取り組み自体はいいのだが、「生徒指導措置数 0 件」を目的とされている。0 件を目標とすると、それを達成しようとして問題を見過ごしたり、問題を取り上げたこと自体を問題にしてしまったりすることがある。自己目的化しないことが一番大事だと意識してほしい。さらに、いじめはありますし、起こります。だから「課題が生じれば助け合い、支え合い、励まし合う学校風土」とあるとさらに良いと思う。本校はこれだけいろいろと取り組んでもらい、地域との連携も大変だろう。成果もそれほど大きくないかもしれないが、地域から感謝されている。そのことを生徒に伝えてほしい。広報も大切。

4 報告・連絡事項

(2) 志願者数結果報告

(3) SCS 活動報告

(4) 学校魅力強化委員会での協議内容の実現等について

事務局：昨年度と今年度の本会議の中で、学校に対する意見・提案の実現等について報告。

会 長：委員からの意見を実行するとすぐに良くなるというわけではないと思うが、実行の報告をいただいてありがたい。先生方も大変だとは思いますが、今後ともよろしく願います。

事後措置	朝礼時報告	○	職員会議にて報告	校内 LAN にて広報	職員向け配布物机を利用して広報する。
	その他（ 学校 HP に掲載 ）				